

一般社団法人高耐久化推進機構の設立について

概要

1. 名称 一般社団法人高耐久化推進機構
2. 設立 平成26年2月
2. 役員
代表理事 丹野政志
副代表・理事 高橋保夫
専務理事 筒井公平
理事 實石欣哉
監事 廣瀬 文士
3. 場所 東京都新宿区大久保2-3-4 出光新宿ビル5階

4. 設立趣旨

(1)インフラの老朽化による危険性や首都直下地震への対策が叫ばれる中、インフラの「高耐久化」に寄与する民間の優れた技術・工法を発掘し、「高耐久化」についての考え方を広く普及・伝播させる社会への貢献を果たすこと。
(2)「いい技術」「いい工法」も、使われてこそ価値があるので、有力なビジネスとして発展させるまでを目標とする。

5. 定款目的

- (1)高耐久化の実業への普及・定着のための各種小集団活動の促進、講演会、出版活動。
- (2)高耐久化のための優れた技術、工法、素材等の発掘、情報収集、情報提供、普及活動。
- (3)高耐久化に必要な新技術、工法、素材等の開発支援。
- (4)地球資源の持続的な工コ利用に寄与する新技術、工法、素材等の開発支援
- (5)前各号に掲げる事業に附帯又は関連する事業

6. 会員の募集・・・現在、下記会員を募集しております。

- (1)正会員:当法人の目的に賛同し入会した者
→実業に結び付き実践的な小集団活動を通じて、ともにビジネス展開を目指すメンバー
- (2)一般会員:当法人が開催する講演会等に参加するために入会した者
→高耐久化における知識・知見を広めたいメンバー

設立の背景・・・政府もインフラの長寿命化に本腰を入れ出した！ 平成25年11月「インフラ長寿命化基本計画」が策定

現実

一つの発端・・・
中央高速自動車道
笹子トンネル事故
☆全国の2メートル以上の道路橋約70万橋の内、10年後に40%が耐久目途と言われる建設後50年以上経過☆約1万本のトンネルは10年後に31%が50年以上経過するも、メンテナンスの制度や体制、技術・ノウハウが十分

特に首都高1号線等東京オリンピックを契機に建設されたものが多い等、今後は危なくて渡れない橋、怖くて通れない高速道路が続出する恐れあり！
しかるに財政基盤は逼迫

インフラ長寿命化基本計画

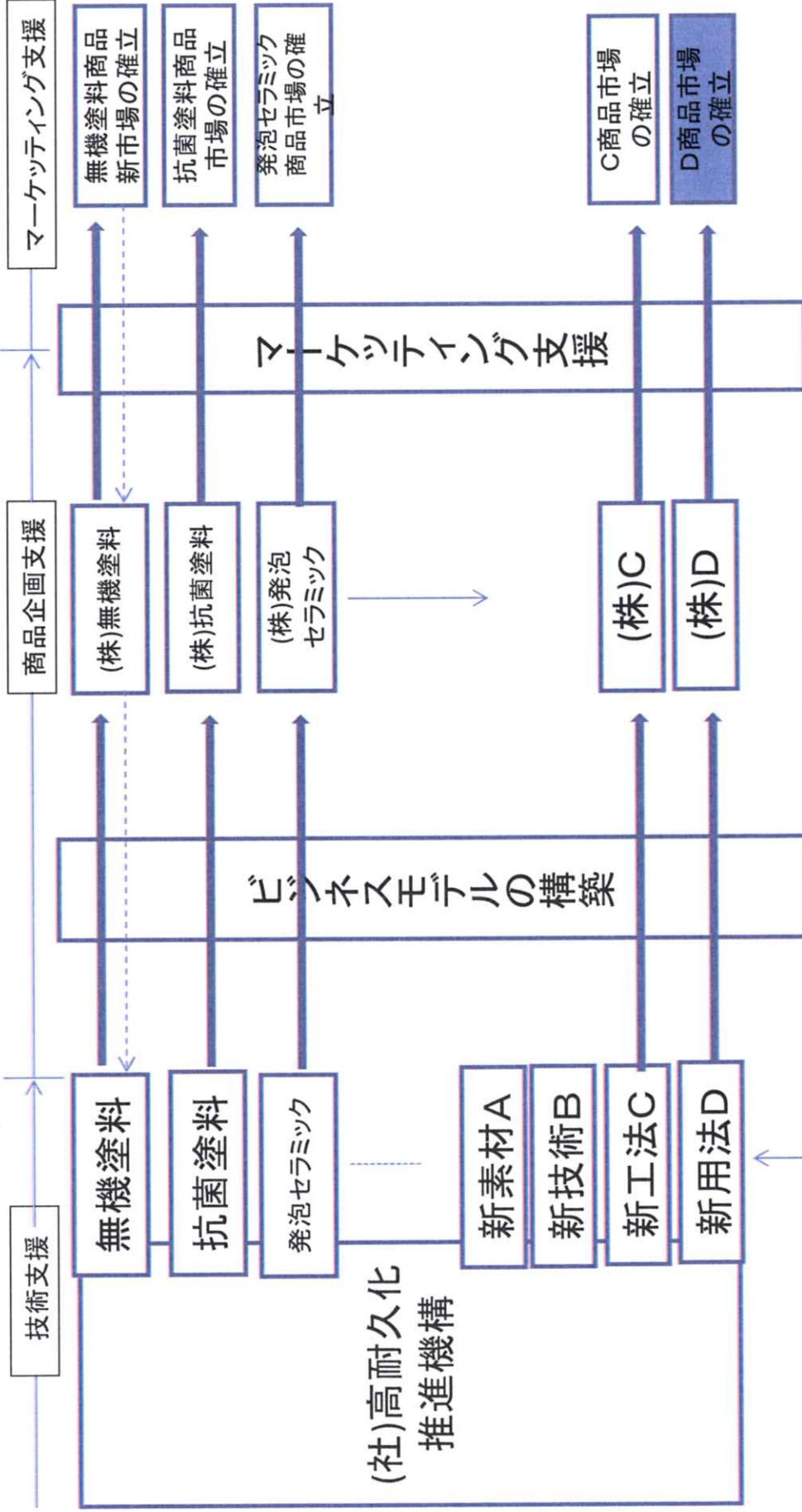
- ①インフラ機能の確実かつ効率的な確保、並びに中長期的視点に立ったコスト管理・予備保全型維持管理の導入→トータルコストの縮減・平準化によりインフラ投資の持続可能性確保・維持管理の容易な構造の選択
- ②メンテナンス産業の育成
産学官連携の下、新技術の開発・積極公開により民間開発を活性化させ、世界の最先端へ誘導
- ③多様な施策・主体の連携
・防災・減災対策等との連携により、維持管理・更新を効率化
・政府・産学界・地域社会の相互連携を強化し、限られた予算や人材で安全性や利便性を維持・向上

アベノミクスの3本目の矢「日本再興戦略」

- ①世界最先端の技術に支えられた安全で強靱なインフラを維持・確保するシステムを、日本のメンテナンス産業として発展させ、この分野で世界のフロントランナーとしての地位を築く
- ②インフラの一斉老朽化が今後予想されるアジア等の新興国へもインフラビジネスの輸出を図っていく。

(社)高耐久化推進機構の役割・・・実学から実業まで

「顧客とは認知、理解、評価、選考、確信→購入という経路をたどる」
 「マーケティングとはモノやサービスを作り出す前からその仕事が始まっている」(コトラー)



「起業化精神を育む」(日経新聞)・・・「できる理由」探しに知恵を絞る
 ①「昨日までできなかったものを今日から常識に変えていくビジネスモデルを構築」②「結果から逆算して考える」→「数年後にビジネスが成熟した時をイメージする」③そこから逆算して「競合他社が対策をとるタイムラグを予測」→顧客基盤拡大スピードを考えると「新たな製品やサービスを市場に投入する時期の決定」→「そのために資金が必要となる時期」等の重要な節目設定を設けること。